第46号
2023年12月1日発行

かながわ 助産師職能だより

公益社団法人神奈川県看護協会 助産師職能委員会　発行責任者　布施 明美
〒231-0037 横浜市中区富士見町3-1　TEL：045(263)2901　FAX：045(263)2905
E-mail kanakan1@basil.ocn.ne.jp　URL https://www.kana-kango.or.jp

ごあいさつ

歳末ご多端の折、会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素、会員の皆様には当協会の運営にご協力とご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度皆様にご協力いただいたアンケートでは、神奈川県における「母子のための地域包括ケア病棟」の実態調査をいたしました。対象は神奈川県看護協会に加入している施設（128施設）にご協力を頂き、回収率は約15%でございました。

日本看護協会が目指す①院内助産・助産師外来、②産科関連病棟におけるユニットマネジメント、③医療機関における産後ケア事業、そして④地域連携の4つの機能を有す母子のための地域包括ケア病棟を展開推進している施設は、4か所の施設との回答でした。

助産師職能委員長
布施 明美

現代の母子はさまざまな身体的・精神的・社会的課題を抱えており、妊娠期から子育て期における切れ目のないケア・支援提供体制の整備が求められています。しかし現状では、分娩取扱施設数の減少や他科との混合病棟化により、分娩取扱施設においても、母子に十分な支援を提供することは難しい環境にあります。助産師をはじめとする看護職が妊産婦と新生児に集中してケアができる体制が整備され、妊娠・出産・子育て期において切れ目なく継続したケアが提供できる場と機能をもつ施設がさらに増え、お母様とご家族が安心な出産、育児ができる神奈川県でありたいと考えます。今年度の助産師職能委員会では成功事例を共有し、現代の母子にとって必要な研修を展開して参ります。また少子少産化を鑑み、プレコンセプションを教育できる人材教育にも尽力していきたいと考えています。助産師・看護師の皆さんの力で安全・安心・温かい周産期ケアでお母さまと家族を支援いたしましょう。本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

神奈川県の地域包括ケア病棟の現状について
～対象病院の紹介～

湘南藤沢徳洲会病院

神奈川県藤沢市辻堂神台 1-5-1

妊娠初期	妊娠中期	妊娠後期	分娩期	産褥期
●妊娠12W～： 産科 （リスク評価・インフォメーション） ●妊娠16週頃～： コース選択 （医師orひだまり） ・育児支援チェックリスト	●医師コース健診 （医師による妊婦健診・助産師による保健指導） ●ひだまり健診 （医師と助産師による交互の妊婦健診・保健指導）		●医師コースor 院内助産ひだまり 	●産後4日目： EPDS・赤ちゃんへの気持ち質問票 ●2週間健診： 来院or電話訪問 ●1ヵ月健診： 助産師面談 ●産後ケア入院（～4M） ●母乳外来
○マタニティヨガ・両親教室（すくすく子育てクラス） ○出産・育児相談会				○ベビーマッサージ ○育児相談会・座談会

当院では医師と助産師が共同し、妊娠～産後まで安心して出産･育児が行えるように妊産褥婦をサポートしています。ローリスクかつ正常な経過をたどっている方は、ひだまりコース（助産師外来・院内助産）を選択でき、助産師主体の関わりを実施しているのが特徴です。ハイリスク症例や医師コースを希望される方には、保健指導を実施し、妊娠期から助産師の関わりの充実を図っています。また、メンタルヘルスにも力を入れており、ハイリスク症例については、妊娠期より臨床心理士を含む多職種で情報共有し、地域連携を含む産後までのサポートをしています。また、2023 年 4 月より需要が増加している産後ケア入院を始めました。

コロナが流行し、妊娠～育児まで孤独感を抱く方が増加している中で、私たち病院助産師にできるサポートは何かを考え、オンラインにて様々な教室開催・運営をしています。これらの教室は、他の妊婦・褥婦との交流ができ、更にスタッフとの交流が深められる場となっています。また、各スタッフが院外で取得した資格を活かし、病院内で教室開催を行う事で、個人のスキルアップやモチベーションの維持・向上につながり、退院後の母児に継続して関われる環境はスタッフにとっても、大きな学びと喜びになっています。

当院は JCI 認証病院であり、国際色豊かな患者様が多いのも特徴です。妊娠～育児まで、喜びや不安な感情に寄り添いながら、妊産褥婦を取り巻く家族も含めて継続的なサポートができるよう、スタッフ一同取り組んでいます。

助産師外来

病棟・外来一体化となっているため外来で関わったスタッフが分娩時にも関わることも特徴です。指導の他に助産師による超音波検査も実施しています。

院内助産

正常に経過し院内助産を希望される方が対象です。バースプランを元に助産師主体で産婦様のご希望に添えるよう一緒に取り組んでいます。

オンライン教室

妊娠中・産後にマタニティヨガやベビーマッサージすくすく子育て教室（育児･準備）を開催しています。

産後ケア

2023 年 4 月より産後ケアをスタートしました。対象地域は順次拡大中です。

育児疲れや育児技術・メンタルサポート等できるようスタッフ一同取り組んでいます。

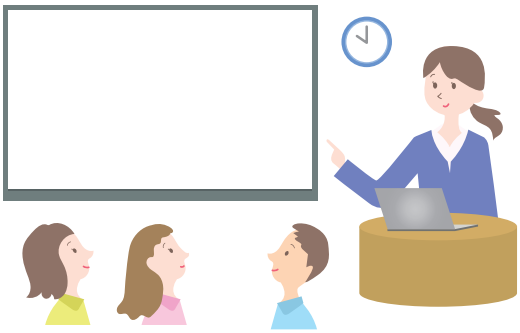
全国助産師職能交流集会

2023年度　全国職能別交流集会に参加して

助産師職能委員会　平林 奈苗

全国助産師職能交流集会では、最初に井本委員長による2022年度活動報告と2023年度方針説明がありました。活動報告では、産後ケア事業が県の医療計画の中にどのように記載されているか、医師の働き方改革に伴う助産師へのタスクシェア・タスクシフト、医療・保健・福祉等にかかわる関連団体との連携などが挙げられていました。中でも、医師の働き方改革に伴うタスクシフトについては、私が勤務する病院でも進められていることであり、「業務が増える」と考えるよりも、妊産婦の満足度の増加と多様なニーズに応えるため助産師の活動の場を広げるチャンスと前向きに捉えることができました。

2023年度の事業計画の一つに、母子のための安心・安全な地域包括システムの構築が挙げられています。小項目に助産実践能力の強化としてCLoCMiP必須研修の作成・見直しがあり、病院勤務の助産師教育を見直すための参考にもなりました。



後半は「女性とその家族の支援について考えよう」と題し、教育機関への助産師の出張授業や生涯を通じた女性とその家族への支援の実際の公演を拝聴しました。病院の周産期領域でしか勤務経験のない私には、地域社会の様々なフィールドでの活動や女性の生涯の健康問題に取り組む活動は、視野を広げる機会にもなりました。助産師は、女性とともにある、女性のそばにいる職業です。周産期だけでなく、女性のライフステージそれぞれに健康課題があり、女性が心身ともに健康で過ごすための活動も助産師の特権だと思います。

勤務助産師では定年がありますが、看護協会や教育現場で働く助産師の諸先輩方や助産所を開業されている助産師の先輩方を見ているとバイタリティーにあふれ、生き生きと働いていらっしゃる姿も拝見します。定年後はのんびりなどと考えている場合ではありません。助産師である限りは、いろいろなフィールドで女性にかかわっていくことができると感じられ、改めてこの道を選んで良かったなと感じる1日となりました。

*** 2022 年度 ***
助産師職能委員会 活動及び研修会 報告

2022 年	7月21日(水)	職能委員会・職能集会 講演会「授乳支援」 ◆ みやした助産院　宮下 美代子
	8月	休会 倫理審査会：担当者参加
	9月16日(金)	職能委員会
	10月21日(金)	職能委員会 研修会「CTG 判読と母体感染のリスクと対応」 ◆ 神奈川県立こども医療センター 副院長･産婦人科部長　石川 浩史
	11月25日(金)	職能委員会 研修会「産後ケア」 ◆ かもめ助産院　鈴木 令佳 ◆ 湘南医療大学 准教授　青島 恵美子
	12月16日(金)	職能委員会
2023 年	1月20日(金)	職能委員会 研修会「学ぼう！助産ケア」 ◆ ウパウパハウス岡本助産院　岡本 登美子
	2月10日(金)	職能委員会 研修会「周産期メンタルヘルス」 ◆ ウパウパハウス岡本助産院　岡本 登美子
	3月17日(金)	職能委員会
	4月28日(金)	休会
	5月19日(金)	職能委員会
	6月23日(金)	職能委員会

Voice1 授乳支援に参加して

横浜市立みなと赤十字病院◆原田 海

私は今、地域周産期母子医療センターで助産師として勤務しています。母乳育児支援においては、外来における妊婦健診時の指導・分娩期から産褥期の授乳支援・母乳外来におけるトラブル時の対応や卒乳支援の業務に関わらせて頂いています。日々業務を行う中で1人1人にじっくりと時間をかけ、関わりたいと思う反面、時間の制約もあり十分な指導が出来ていないのではないかと感じています。

今回、宮下先生の講義を受け改めて個別性に合わせ、本人の力を引き出す指導の大切さを学びました。日々の業務の中で精神疾患合併など様々な社会背景を持っている母子と家族、強い母乳希望がある中でも分泌不足で混合栄養となる方、乳房トラブルで母乳を諦める方など様々な背景を持つ母子と関わる機会がありました。母乳育児を強く望む方でも入院期間中混合栄養となった方や授乳時のトラブルで母乳を諦めた方などに対し、退院後の支援の機会は少なくご本人の希望を十分に尊重できた事例は少なく感じます。しかし、講義を受ける中で助産院においては、母乳率が98%程度というお話を伺い衝撃を受けました。母乳育児を望む妊産褥婦に対し、妊娠期から身体作りや母乳育児に対する意識を高める支援が重要であると学びました。さらに母子の力を引き出しトラブルに直面した際にもご本人と共に乗り越えられるよう気持ちに寄り添い選択肢を提供し、母乳育児に達成感を感じることのできる支援を行うことの重要性を学びました。

今後、母子やその家族と関わる中で限られた時間の中でもご本人の生活背景や全身状態を丁寧にアセスメントし、学ばせて頂いたケアを活かしていきたいです。そして、病院内の指導だけでなく地域の助産師の方々と連携し、母子に切れ目のない支援を行っていきたいと強く感じました。

みやした助産院　宮下 美代子

Voice2 CTG判読と母体感染のリスクと対応に参加して

横須賀共済病院◆尾無 未侑

今回、講義を受講し母体と胎児の状態を把握するCTG判読の重要性を再実感しました。

講義の中で講師から参加者に質問もあり、講義を聞くだけでなく主体的に考え学ぶことができました。症例に対し、CTGをどう判読するかという質問があり、参加者の中でも同じ症例に対しCTGの判読が分かれたことが度々ありました。1番大切なのは、母体・胎児のサインを見逃さないため、それぞれ知識と根拠を持って判読することであると今回の講義を受けて学ぶことができました。

神奈川県立こども医療センター　副院長・産婦人科部長 石川 浩史

母子感染については、劇症型A群連鎖球菌感染症、子宮内感染と脳性麻痺、そしてコロナウイルスについて、症例を見ながら臨床により近いかたちでその対応や知識を学べました。どの感染症においても、急変前には必ず何らかのサインがありそれをしっかりと見逃さないことが重要で、我々医療従事者に求められている力であると感じました。さらに、症例に対し、この判断は正しかったのか、何が良かったのかを考える機会になりました。症例検討の経験が少ない私にとって、大変有意義な時間でした。

自分で主体的に考え伝える機会が多くありオンラインでの講義でしたが、会場で受けているような充実した時間でした。

Voice3 産後ケアに参加して

横浜市立みなと赤十字病院◆野口 智美

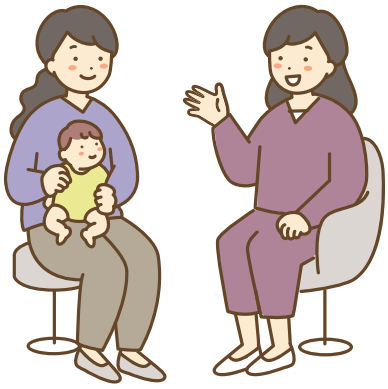
私は、当院で昨年より開始した横浜市産後母子ケア事業ショートステイの受け入れに、立ち上げから関わってきました。産後ケア受け入れについては病棟内でもいろいろな意見がありました。コロナによる病棟の再編成で、小児科病棟との合併、スタッフ不足などさまざまなことが重なり、「今のような大変な時期に産後ケアを始める必要があるのか。」という意見もありました。そんな中、当院で入院している方から受け入れを開始し、試行錯誤の１年でした。

今回看護協会で「産後ケア」研修が開催されると聞き、今後の運営やスタッフ教育について助けになればと思い参加しました。

研修では、母子保健法や産後ケア事業ガイドラインなど基本的なことから、地域と連携して、切れ目のない支援をするために助産師として何をするべきかを学ぶことができました。母子とその周囲を取り囲む環境をしっかりアセスメントして、多職種で必要な支援を行うこと。基本的なことですがこれがとても大切なことだと再確認できました。当院では、経験の浅いスタッフが担当することもあるので、様々な視点から支援の方向性を考えられるように日々のカンファレンスを大切にかかわる必要があると感じました。

産後ケアの実際をかもめ助産院の実例として聞くことできました。多種多様な事例とそれに対する対応を知る他、行政との連携・安全についてなど、よりよい支援にするために、助産師として多方面に働きかけていく必要性がある事を感じました。

今回の研修で学んだことをもとに、産後ケアを必要とする方が本当に必要な支援が受けられるようにするため、自分たちが今できること、しなければならないことを話し合い、院内マニュアルの修正などより良い支援に向けて働きかけていきたいと思います。



Voice4 学ぼう！助産ケアに参加して

康心会 汐見台病院◆林 朋子

この講義の中で、岡本先生の離島での助産師としての活動や自分の出産を機に出張助産院・保育園・助産院の事業展開をされたお話を聞きました。産後ケアハウスを開設するときに多額の借り入れが必要で、産後うつと虐待を予防する意味を銀行に訴えかけられたお話は頭が下がる思いでした。自身の生活の土台を捨てても、母児に寄り添い生きるという強い信念と、困難を恐れず行動される生き方に感動しました。

ウバウバハウス岡本助産院
岡本 登美子

助産ケアでは助産力・KKD が大切で「K:経験・科学的（お産は同じパターンではない・繰り返し経験してお産のバリエーションを理解してノウハウが身につくようになる。）」「K：勘・ケア（勘が芽生えてくるようになる）」「D:度胸・Dr コンタクト（命の誕生には生と死が隣り合わせで度胸がつく・お産を経験すればするほど直観が働き度胸がついてくる）」と、安全で快適な分娩の為に、分娩する女性にしっかりと向き合い築きあげられた助産師の技を教えて頂き、今後の実践にとても勉強になるお話でした。

近年の社会情勢から母子の抱える問題は多様化していることをふまえ、助産師が実施する産後ケア・保育園・訪問看護ステーションの経営を実現されているお話を聞きました。これから開業を考えている助産師だけでなく、開業している助産師にも役立ちマニュアルだけではわからない情報が満載でした。

また、助産師が母子を守るのだという強い気持ちを持ち経営感覚を身に着け、社会の施策づくりにも参画していくことの重要性を感じました。

母子に寄り添い、助産師としてするべきことを伝えて下さった岡本先生の講義を一人でも多くの人に聞いていただきたいと思いました。

Voice5 周産期メンタルヘルスに参加して

クリニック勤務助産師

この研修に参加しようと考えたきっかけは、転職したクリニックでの精神疾患など様々な背景を抱える妊産婦さんの多さを身をもって感じており、多忙な業務の中でどのように関わるべきなのか、多職種がいないクリニックでの対応など悩むことが多く、業務に生かしたいと考えたためです。

既存の訪問看護については理解できていた部分もありましたが、周産期のメンタルヘルスケア等に特化した助産師による訪問看護の存在は、恥ずかしながら初めて知りました。訪問看護は妊娠期から顔が見える関係を作れることや、家族を含めた支援のあり方の構築、また夜間休日も対応可能で衝動的な行動に対するケアなど様々な訪問事例のお話を聞き、リアルな現場の状況と周産期の在宅ケアのニーズの高さも感じました。

多職種連携についても講談されていましたが、母親の健康と子供の健やかな成長をサポートするということは、行政など多職種で情報共有を行い、それぞれの専門性を活かしたネットワークの構築がより効果的なものになっていくと感じました。

ウバウバハウス岡本助産院　岡本 登美子

また講義の終盤での、先生の「働き方改革」という言葉が印象に残りました。今回、訪問看護の提供という助産師の新たな支援の方法を学ぶことができ、自身の視野が広がりました。今後の展開でも話されていましたが、辛そうに悪阻の点滴に通う妊婦さんや切迫早産で長期入院を余儀なくされ、退院後の筋力低下で苦しみを抱える妊婦さんからの在宅ケアの要望は厚いと私も思います。妊娠中の在宅ケアが広がり、今後妊婦さんがより良いマタニティライフを過ごせるようになればと思います。

今回学んだことを活かし、今後も日々研鑽を積んでいきたいと思います。

*** 2023 年度 *** 助産師職能研修予定

（敬称略）

緊急時の対応

開催日◆ 2023 年 11 月 17 日

講　師◆ 医療法人産育会 堀病院 理事長　金井 雄二

地域包括ケアについて考える・プレコンセプションケア

開催日◆ 2023 年 7 月 28 日

講　師◆ 医療法人産育会 堀病院 看護部長　布施 明美

◆ 医療法人産育会 堀病院 主任看護師　岩田 真由美

妊娠と糖尿病

開催日◆ 2023 年 11 月 17 日

講　師◆ 神奈川県立こども医療センター　萩原 聡子

授乳支援

開催日◆ 2023 年 10 月 19 日

講　師◆ みやした助産院　宮下 美代子

4 職能合同研修会「メンタルヘルスと自殺問題」

開催日◆ 2024 年 1 月 26 日

講　師◆ 札幌医科大学 医学部主任教授　河西 千秋

2022 年度　助産師職能委員紹介

助産師職能委員長	布施 明美	会　計	小保方 加奈子
副委員長	平林 奈苗		土井 秀子
書　記	関口 保子		中村 綾美
	千葉 菜緒		諏訪 和美
	関口 美鈴	広　報	岩田 光代

2023 年度　助産師職能委員紹介

助産師職能委員長	布施 明美	会　計	土井 秀子	広　報	菅原 真澄
副委員長	小保方 加奈子		三浦 菜見子		吉田 淳
書　記	千葉 菜緒		諏訪 和美		和田 紗耶加
	関口 美鈴				

かながわ助産師職能だより
第 46 号　2023 年 12 月 1 日発行

編集後記◆ 2022 年度助産師職能委員会が開催した事業のトピックスをまとめることができました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。